

事業のビジョン

熊本にアリーナを創ることで、元気のある熊本にする！

事業の背景

熊本地震から5年…交通インフラなど復旧は進んでいるものの、現在も仮設住宅に住まざるを得ない方も多く、まだまだ熊本地震の爪痕は大きく残っています。ようやく国道57号線の開通や熊本城天守閣復旧など、インバウンド需要を増やし熊本の復興を期待する矢先、新型コロナウイルス感染症の拡大。一年以上経過した現在でも、いつ終息するかわかりません。さらには昨年7月4日に多くの被害をもたらした県南豪雨災害。熊本県は大きなダメージを受けています。

また観光の視点で見ると、世界最大級の阿蘇カルデラや、2018年ユネスコ世界文化遺産の構成資産の1つとして登録され注目されている歴史的にも有名な天草など、全国有数の観光地があるにも関わらず熊本が持つ魅力を最大限に発信できていないと感じています。※2019年全国延べ宿泊者数ランキングでは24位(九州内4位)という結果

このような背景から、熊本にアリーナを建設することは、アリーナを核とした熊本県スポーツ市場の拡大を図ることはもちろんのこと、有名アーティスト公演の誘致や、多様な世代が集う交流拠点として熊本県を元気にできると考えています。また、災害時や緊急事態発生時の避難拠点としての機能を果たす見立てでもあることから、アリーナを建設することは熊本を元気にする起爆剤になりえると考えています。

また、スポーツ庁では「スポーツ市場規模(2015年:5.5兆円)を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円に拡大することを目指す」全国のアリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2017年から2025年までに新たに20拠点を実現するというKPI(重要業績評価指標)を掲げており、この施策に則り、熊本にアリーナを建設したいと考えています。

事業コンセプト

①熊本を担う人材の育成

室内スポーツ競技の開催及び国内外トップリーグ・国内最大級イベントに触れることで、熊本の子どもたちが夢を持って成長していく機会を創出することができる。また、教育機関や地域と協力し、楽しい熊本を作ることで熊本を担う人材の育成につなげる。熊本県内の企業・行政と連携し雇用を創出することで、熊本からの人口流出を防ぐ。

②社会的効果・地域への効果

多世代にとって利用しやすい施設になることで県民の健康増進、地域の活性化につながり地域コミュニティを創出する。

③観光経済効果

観光都市熊本が誕生し、全国からお客様に熊本に来てもらうことにより観光を含め、熊本の経済(ホテル・交通・県産物・飲食店)に莫大なる波及効果をもたらす。

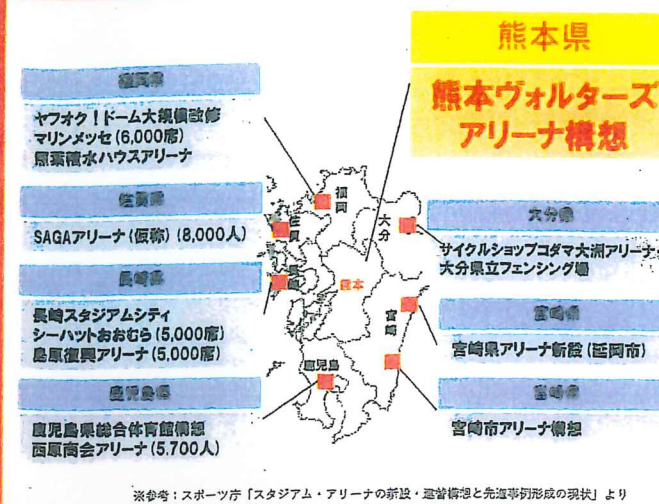
④災害時、緊急事態発生時の避難場所

新アリーナはこれまでにない収容人数になることから災害時・緊急事態発生時には避難拠点としての機能を果たす。

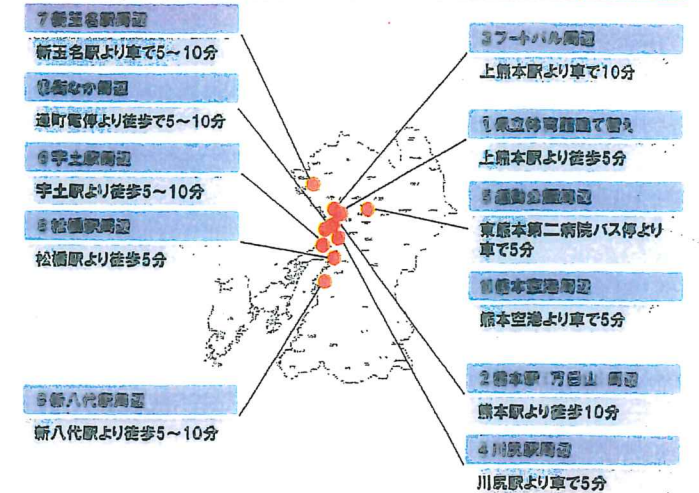
施設整備・運用時の関係者(ステークホルダー)

関係者	役割(想定)
熊本県などの公的機関	公的支援(土地提供)
熊本ヴォルターズ	ホームアリーナ活用と連携
地元関係業者	施設整備・運営協力等
スポンサー	施設建設費・運営支援

九州のアリーナ(構想含む)



ヴォルターズが考える熊本県内の候補



事業スケジュールと2021年度に計画している事項と進捗状況

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2021年 計画項目
基本構想	→							8月 「熊本の未来をアリーナで創ろう」シンポジウム開催
基本計画		→						9月 各行政・自治体との協議
基本設計 実施設計			→					10月 公募・公募で候補を募集
建設				→				11月 アリーナを創るための意見交換会
運営開始					→			12月 建設地決定
						→		1月 スポーツ庁 「調査費補助金」申請締め切り
							→	2月 「調査費補助金」申請締切
								3月 「調査費補助金」申請締切

施設の利用用途・利用方法の想定・経済波及効果

【現時点で想定される年間稼働日数】年間のアリーナ稼働日数 261日 (設営・撤去の日数を含む)
(年間365日ー設営撤去日等16日)×稼働率74.8%＝261日

バスケットボール Bリーグ他	32回	10回(設営・撤去込み)10日間、12日・13日 U-18・U-19: 年間試合数 24回 スクール開催ほか、大会試合 10回 Bリーグアウォード大会、チャンピオンシップ など等々(設営・撤去込み)17日
バドミントン 卓球・柔道 相撲・剣道・空手 ハンドボール バレーボール スケートボード ストリートダンス他	30回	各スポーツ大会(設営・撤去込み) 延べ40日間
eスポーツ	2回	県大会・予選会2回(設営・撤去込み) 3日間・2回＝6日間
コンサート	8回	8回(設営・撤去込み) 7日間×8回＝56日
コンベンション	10回	10回(設営・撤去込み) 3日間・10回＝30日
行政主催催事	10回	10回(設営・撤去込み) 2日間×10回＝20日
大規模集会	3回	年間3回(設営・撤去込み) 3日間・3回＝9日

●フラットアリーナ(青森県八戸市)の例
→詳細 <https://h1jv/25p0wxx>
市は2020年度から30年間にわたり年間1億円(税別)の利用料を支払う対価として、年2500時間の利用枠を得る。
・ネーミングライツ(施設命名権)の導入も検討

<想定される1コンサート開催あたり>
●来場者5,000名(6割が県外者)
・宿代:15,000円・食事代:12,000円
・現地での交通費:4,000円
・お土産代:3,000円
経済波及効果:1億2百万円(1回あたり)

年間の経済波及効果:約50億円